

平成 25 年度 事業報告

(自:平成 25 年 4 月 1 日 至:平成 26 年 3 月 31 日)

I 事業の状況

本財団は、薬学及び関連諸分野の研究を奨励振興するため、平成 25 年度は以下の諸事業を行った。

1 研究助成金の授与

薬学及び関連諸分野の基礎並びに応用研究に関し、独創的な発想で研究を展開し、注目すべき業績をあげつつある将来有望な若い研究者に対して、助成金を授与した。

グループ A は助成対象を化学系、物理系、生物系、医療系の各分野及びこれらの複合分野の基礎的研究から合計 10 件（1 件 100 万円）を、グループ B については調査・統計研究を含む以下の各分野の研究、すなわち医療現場（薬剤部・薬局）における研究、伝統医薬に関連した研究、衛生化学・環境化学を指向した研究、医薬品・医療分野における分析を対象とした研究、社会薬学・レギュラトリーサイエンス研究及びこれらの複合分野の応用研究から合計 8 件以上（1 件 80 万円以内、総額 640 万円以内）を選考することとした。

グループ A は 97 件、グループ B は 40 件の応募があった。選考委員会の推薦を受けて、理事会においてそれぞれ 10 件および 9 件に授与することを決めた。助成金授与決定研究題目及び受領者は別紙 1 のとおりである。

2 国際学術交流補助金の授与

1) 研究者の海外派遣補助金の授与

平成 26 年度に、海外で開催される薬学及び関連諸分野の国際会議等への参加旅費等の補助を希望する研究者を対象に採択枠 2 件として募集したところ、4 件の応募があり選考の結果、2 件に補助金各 30 万円（総額 60 万円）を授与した。補助金を授与した受領者および参加学会は別紙 1 のとおりである。

2) 海外からの研究者招聘補助金の授与

平成 26 年度（2014 年 3 月の日本薬学会第 134 年会を含む）に、国内で開催される薬学及び関連諸分野の学術集会等への海外在住研究者の招聘費補助 2 件の募集をしたところ、1 件の応募があり選考の結果、1 件に 40 万円（総額 40 万円）の補助金を授与した。補助金を授与した申請者及び招聘者と開催学

第 34 回 (平成 25 年度) 薬学研究奨励財団 研究助成金 (グループ A・B) 及び
国際学術交流補助金 (海外派遣・海外招聘・国際会議開催) 受領者

I 研究助成金

1 グループ A (1 件 100 万円、10 件、総額 1,000 万円)

「マウス間相互作用を基盤とした新規意欲評価系の構築と創薬研究への応用」

(大阪大学大学院・薬学研究科・助教) 吾郷山希夫

「多置換テトラヒドロピランの効率的合成を機軸とする生物活性天然物の合成研究」

(北海道大学大学院・薬学研究院・准教授) 穴田 仁洋

「持続型有機合成化学を指向する刺激応答性動的マルチタスク触媒の開発」

(東京理科大学・工学部・講師) 今堀 龍志

「MRI を利用したエマルジョン製剤の乳化安定性評価と処方設計」

(星薬科大学・助教) 大貫 義則

「大腸菌の高病原性をひきおこす分子機構の解明」

(東京大学大学院・薬学研究科・准教授) 垣内 力

「イメージング質量分析を用いた抗悪性腫瘍薬の組織中薬物分布可視化技術の開発」

(国立がん研究センター研究所・研究員) 新聞 秀一

「リシン脱メチル化酵素 LSD 1 の阻害を引き金とした二重機能型抗がん剤の創製」

(京都府立医科大学大学院・医学研究科・教授) 鈴木 孝慎

「長期うつ治療による海馬神経可塑性の分子メカニズム」

(京都大学大学院・薬学研究科・特定准教授) 瀬木(西田)恵里

「TLR4 と CD14 を標的にした機能抑制型二重特異性抗体の創製による

新規敗血症治療薬の開発」 (東北大学大学院・薬学研究科・助教) 塚本 宏樹

「甲状腺ホルモンが制御する学習臨界期決定機構の解明」

(帝京大学・薬学部・准教授) 山口 真二

(応募件数 97 件)

2 グループ B (1 件 60~80 万円、9 件、総額 630 万円)

「固体高分解能 NMR による医薬品製剤中の結晶多形の評価」

(国立医薬品食品衛生研究所・薬品部・室長) 阿曾 幸男

「実臨床下における第二世代 Bcr-Abl TKI の効果・副作用と

薬物動態評価に基づく治療最適化の検討」

(千葉大学医学部附属病院・准教授・副薬剤部長) 有吉 範高

「血液分泌タンパク質ががんマーカー探索のための新規プロテオミクス手法の開発」

(武蔵野大学薬学研究所・客員講師) 一番ヶ瀬智子

「民間薬「小連翹」未利用部位の有効利用法の開発を目指した化学的研究」

(北海道大学大学院・薬学研究院・助教) 田中 直伸

「免疫抑制剤のカルシニューリン活性阻害値を新たな治療指標とする

膠原病治療への期待」

(富山大学大学院・医学薬学研究部(薬学)・准教授) 辻 泰弘

- 「北京市在住小学生の大気汚染曝露実態と健康影響に関する調査研究」
 (金沢大学・医薬保健研究域薬学系・助教) 唐 寧
- 「速度論解析に基づく非定型抗精神病薬による血糖値異常の予測法開発」
 (東京医科歯科大学医学部附属病院・薬剤部・准教授) 永田 将司
- 「分子標的治療薬による皮膚障害の STAT3 を標的とした新規治療法の確立」
 (神戸大学医学部附属病院・薬剤部・薬剤師) 山本 和宏
- 「ヒト苦味受容体の構造変化を考慮した医薬品の新規苦味予測技術の開発」
 (武庫川女子大学・薬学部・講師) 吉田 都
 (応募件数 40 件)

II 国際学術交流補助金

1 研究者の海外派遣補助金 (1 件 30 万円、2 件、総額 60 万円)

- 「第 16 回国際ブドウ球菌研究会」 2014. 8. 26～29 米国 シカゴ
 (長崎国際大学・薬学部・准教授) 黒川 健児
- 「欧州フリーラジカル会議 2014」 2014. 9. 5～7 フランス パリ
 (徳島大学病院薬剤部・薬剤師) 堀ノ内裕也
 (応募件数 4 件)

2 海外からの研究者招聘補助金 (1 件 40 万円、1 件、総額 40 万円)

- 「日本薬学会 第 134 年会」 2013. 3. 27～30 熊本
 (ワイズマン科学研究所・教授) ジョウ エル サスマン
 【申請者 組織委員長 熊本大学・薬学部・薬学部長 大塚 雅巳】
 (応募件数 1 件)

3 国際会議の開催補助金 (1 件 50 万円、3 件、総額 150 万円)

- 「第 3 回国際硫化水素学会 - 生物学と医療応用- 」 2014. 6. 4～6 京都
 (組織委員長 国立精神・神経医療研究センター・部長) 木村 英雄
- 「第 2 回薬食国際カンファレンス」 2014. 11. 6～7 静岡
 (組織委員長 静岡県立大学・薬学部・教授) 山田 静雄
- 「第 27 回国際ポリフェノール会議 2014 名古屋」 2014. 9. 2～6 名古屋
 (組織委員長 名古屋大学大学院・情報科学研究科・教授) 吉田 久美
 (応募件数 8 件)
 以上

会は別紙1のとおりである。

3) 国際会議開催補助金の授与

平成26年度に国内で開催される薬学及び関連諸分野の国際会議を開催する主催団体を対象に3件の募集をしたところ、8件の応募があり選考の結果、3件に各50万円の補助金(総額150万円)を授与した。補助金を授与した申請者および開催会議(学会)は別紙1のとおりである。

3 刊行物

1) 「薬学研究の進歩-研究成果報告集30」の刊行

平成26年3月に平成22年度の研究助成金受領者18名の研究成果、平成24年度に補助を受けた国際会議の開催報告(2件)を収載した「薬学研究の進歩30」(A4版本文105頁)を刊行した。

2) 機関誌「薬奨ニュース」の発行

平成25年7月および26年1月に機関誌「薬奨ニュース No.17、No.18」を発行した。掲載内容は本財団のホームページにおいても公開した。

以上